

令和7年度

「運営に関する計画・自己評価（最終
評価）」及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立鶴橋小学校

令和8年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、体験活動を基盤とした豊かな言語力と、論理的思考力に基づいた確かな学力、自主的・自律的な生活態度を身につけた子どもを育成することを目指して、教育活動を推進している。

児童アンケートにて「学校が楽しい」と答えた児童は昨年度 96.2%、「授業がよくわかる」と答えた児童は 97%と高い数字を保っている。理由も「学校は友達と一緒に遊んだり勉強したりすることができるから」といった回答が多数を占めている。また、「自分にはよいところがありますか」の質問についても、肯定的な回答が 94%と数値が上がっている。校舎建て替えに伴い運動場が使えない状態でも、休み時間に体育館でのドッジボールやバスケットボール、空きスペースでの竹馬や一輪車、ストラックアウトやキャッチボール、昼休みには生活科室でダンス等、子どもたちがさまざまな活動ができるように教職員全員で工夫して環境を整えてきた。

本年度も、学級活動や学校行事あるいは校外学習等たくさんの教育活動の中で、子ども同士であるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、その学びを通して、自分の存在が認められることや、自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくしたりできることなどの実感を持たせる。

全国学力・学習状況調査の平均正答率については、昨年度は大阪市平均を下回り、大阪市経年調査についても教科や学年によっては、平均を下回ることもあった。本年度は、研究主題を「自分の考えを持ち、対話的に学び合う子どもの育成～個別最適な学びと協働的な学びの一体化をめざした授業づくりを通して～」とした。教材分析の方法を教員全員で共有しながら、①確かな学力・語彙力の育成②個別最適な学び③協働的な学びの3つを研究の柱として取り組む。言語活動や体験活動を通して、学びを深め、友達と交流しながら、児童が「わかった、できた」と実感を伴うような活動の充実を図る。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査については、昨年度は対全国比で目標値を大幅に上回った。今後も体育主任を中心に体育館や生活科室、もと鶴橋中学校運動場の効果的な活用や出前授業や夢授業等、体育活動の工夫を図る。

学習者端末の活用については、心の天気やデジタルドリル等を日常的に取り組みながら、持ち帰り学習の機会も増やし、子どもたちが主体的に取り組める活動を通して活用率の向上を図る。

教員の時間外勤務時間については、月平均時間を毎年少しずつ減らすことができている。引き続き授業時数の見直しや教科担任制、校務分掌の見直し等を図り、働き方改革をさらに進めていく。

見まもり隊の方々をはじめ、PTA や地域の方々が子どもたちの安全を見守ってくださっている。そんな鶴橋小校区の地域性を生かしつつ、様々な社会的な変化を乗り越え持続可能な社会の創り手となるような子どもたちの育成に向けて、さらに学校運営の活性化に取り組んでいく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

〈基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現〉

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・令和7年度をめどに、不登校児童の数を0で維持する。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまり（規則）を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を92%以上にする。
- ・令和7年度の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうることとして考え行動できた」の項目について、肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。

〈基本的な方向2 豊かな心の育成〉

- ・令和7年度をめどに児童アンケートで「自分には良いところがある」と答える児童の割合を90%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を95%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

〈基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上〉

- ・令和7年度末をめどに、小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母体集団で比較し、いずれの学年も令和3年度から2ポイント減少させる。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、1ポイント増加させる。

〈基本的な方向5 健やかな体の育成〉

- ・令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を、令和3年度より0.02ポイント向上させる。（※全国平均を1とした時の割合）

学びを支える教育環境の充実】

〈基本的な方向6 教育DXの推進〉

- ・令和7年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を80%以上にする。

〈基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり〉

- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1（時間外勤務時間が45時間を超える月数0、かつ、1年間の時間外勤務時間が360時間以下）を満たす教員の割合を90%にする。
- ・ゆとりの日については、週1回以上設定する。

学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。

〈基本的な方向8 生涯学習の支援〉

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査・校内調査の「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」に対して、肯定的に答えない児童の割合を、令和3年度より10ポイント減少させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

〈基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現〉

- ・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・令和7年度において、不登校児童の数を前年度より増やさない。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまり（規則）を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。

〈基本的な方向2 豊かな心の育成〉

- ・令和7年度における児童アンケートで、「自分には良いところがある」と答える児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を39%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を65%以上にする。

学校園の年度目標

〈基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上〉

- ・令和 7 年度 小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母体集団で比較し、いずれの学年も令和 6 年度から 0.5 ポイント減少させる。

〈基本的な方向 5 健やかな体の育成〉

- ・令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を前年度より 0.01 ポイント向上させる。 (※全国平均を 1 とした時の割合)

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標 (小・中学校)

- ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 (時間外勤務時間が 4 5 時間を超える月数 0、かつ、1 年間の時間外勤務時間が 360 時間以下) を満たす教員の割合を 80%にする

学校園の年度目標

〈基本的な方向 6 教育 DX の推進〉

- ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。

〈基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり〉

- ・教職員が心身に余裕をもって業務に取り組めるための環境整備を図る。

【その他】

3 今年度の自己評価結果の総括

児童アンケートにて「学校が楽しい」と答えた児童は 100%(昨年度 96.2%、一昨年度 93%)、「授業がよくわかる」と答えた児童も 100% (前年度 97%) と本年度は 3 学期のアンケートで児童全員が肯定的な回答をした。また、「自分にはよいところがありますか」の質問についても、肯定的な回答が 96.9 (昨年度 94%、一昨年度 89%) と数値が上がっている。学級活動や学校行事あるいは校外学習等たくさんの教育活動を担任中心となって工夫し、その中で子ども同士であるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、その学びを通して、自分の存在が認められることや、自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくしたりできることなどの実感を持つことができている。

いじめ、並びに不登校については、全市共通目標に掲げた目標をおおむね達成している。引き続き、学校全体及び行政や関係機関、各家庭と連携を取り、協力して児童を見守る体制づくりに努める。

小学校学力経年調査の正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母体集団で比較したときに、0.5 ポイント減少させるという目標について、4 年生は増減はなかったが、5 年生は 20.7%減、6 年生は 5.4%減と目標を大幅に上回った。学校全体の傾向としては、国語科は全学年 5%減の改善が見られ、特に 5 年生については、全教科 10~20%減となり、大幅な改善が見られた。今後も専科教員を中心に、学びなおしをしながら、系統だてた指導を行っていく。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合は男子 0.98 女子 0.96 となり、目標値 (前年度より 0.01 ポイント向上) を下回った。データを詳しく見ると、体力テストの結果が良好な児童は全国比で男子は 3 倍弱、女子も 2 倍弱いるが、苦手とする児童についても、男子、女子ともに倍近くの児童がいることが分かった。今後も体育主任を中心に体育館や生活科室、もと鶴橋中学校運動場の効果的な活用について模索しつつ、学校外での運動習慣についても改善できるよう学校から働きかけていく。

「教員の勤務時間に関する基準 1 (時間外勤務時間が 45 時間を超える月数 0、かつ、1 年間の時間外勤務時間が 360 時間以下) を満たす教員の割合を 80%にする。」については管理職を含めた数値が 90%となり、目標を達成することができた。また、時間外勤務時間の月平均についても昨年度を下回り、月平均 14 時間程度となり、大阪市の小学校平均よりも 8 時間ほど少ない。引き続き授業時数の見直しや教科専科制、校務分掌の見直し等を図り、働き方改革をさらに進めていく。

児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数は、12 月末までで 30%前後で推移しており目標の 50%以上には届かなかった。しかしながら、12 月中旬より学習者端末の更新を機に、毎日端末を持ち帰るようにしたところ、1 月の端末の 8 割以上の児童が端末を活用した日が 73%と活用率は上がっている。今後は、持ち帰り学習について、連絡帳を端末で管理したり、デジタルドリルを宿題に出したりしながら、授業では子どもたちが主体的に取り組める活動を通して、更なる活用率の向上を図る。

(様式2)

大阪市立鶴橋小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none">・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 <p>学校の年度目標</p> <p>〈基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現〉</p> <ul style="list-style-type: none">・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。・令和7年度において、不登校児童の数を前年度より増やさない。・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまり(規則)を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。 <p>〈基本的な方向2 豊かな心の育成〉</p> <ul style="list-style-type: none">・令和7年度における児童アンケートで、「自分には良いところがある」と答える児童の割合を90%以上にする。	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none">・児童が安心して生活できるように、学級での満足度を分析、考察して個々の児童理解に努めるために、各種調査等に取り組む。・児童が落ち着いて学習に取り組んだり、安心して生活したりすることができるように環境整備に取り組む。・児童が抱える課題を解決するために、スクールカウンセラーの積極的活用を図る。・課題のある児童や問題行動について、職員で協力して解決に取り組む。・児童の心の状態や日々の生活を可視化し、子どもの理解を深めるとともに、いじめ・不登校などの未然の防止・早期発見・迅速な対応を実現する。 (いじめへの対応) (不登校・問題行動などへの対応)	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">・学校、家庭、地域が連携して児童を育てるように、カラー版「鶴橋小のくらし」「学校安全安心ルール」「つるっ子ルール」を年度当初に配付して学校の指導内容の共通理解を図る。また、決まりが守れていない場合にはその都度保護者への案内をする。	

<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回、いじめに関するアンケートを実施し、実施後は、学級児童の個別面談をする。 ・毎月児童理解研修会を実施し、課題のある児童や問題行動等について共通理解を図り、迅速に対応する。 ・年間8回生活指導部会にて不登校傾向児童の対応を検討するとともに、「いいところみつけ」を活用し、経過を確認する。 ・児童に「心の天気」を毎日入力させるとともに担任を中心に職員で朝の会に時間を確保して確認する。異常がある児童にはすぐに声をかけるようにする。 	
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「防犯」「防災・減災」「安全教育」の主旨を理解し、自分の身は自分で守るために、主体的に行動できる態度を育成するために、各種マニュアルの改善、活用の推進と研修及び実技訓練に取り組む。(安全教育の推進)(防災・減災教育の推進) 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区集会を年4回実施し、通学路の安全や登校の仕方について確認する。 ・交通安全教室またはそれに代わる指導を年1回実施する。 ・全学年において、防災・減災にかかる避難訓練の実施に合わせて、年間に合計1単位時間(45分間)以上の防災・減災の指導をする。 ・全学年に向けて、防災訓練を年間1回開催する。 ・不審者侵入を想定した防犯訓練を年間1回実施する。さらに、教職員を対象とした不審者対応の研修会を1回以上実施する。 ・各種災害を想定した引取り訓練を年間1回以上実施する。 ・各種災害時と不審者対応時(防犯)の教職員の役割が関連するように「警備及び防災の計画」、「安全対策マニュアル」の更新を行い、各担当の役割・連携を確認する。 ・令和7年度の校内調査の「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうるものとして考え行動できた」の項目について、肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。 	B
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権学習、道徳学習において、自尊感情の醸成と命を尊重する心の育成に取り組む。(道徳教育の推進)(人権を尊重する教育の推進) 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育全体計画、道徳科年間指導計画、人権教育年間指導計画をもとに道徳教育の推進と充実に努め、年度末校内調査において、「自分を大切にし、周りの人も大切にすることができる」の項目について、最も肯定的な回答率を80%以上にする。 ・人権教育実践報告会を年に1回以上実施する。また、年度途中で計画表をもとに、進捗状況を確認する場を持つ。 ・人権教育年間活動の実践の有無などについて確認し、年度末に係に提出し見直しをする。 ・性に関する指導の教育実践を資料にまとめる。 	B

<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障がいを含む障がいへの理解を深化させ、障がいのある児童が学校や地域で学びやすい基礎的環境整備に取り組む。 ・教職員、児童に対し、発達障がいを含む障がいに関する基礎的な知識及び理解の推進に取り組む。 <p style="text-align: right;">(インクルーシブ教育システムの充実と推進)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ巡回相談を年間2回以上活用し、障がいへの理解と実践力の強化を図る。 ・特別支援教育研修全体会を学期に1回行う。(計画の確認、1学期の振り返りと2学期の確認、1年間の振り返り) ・特別支援学級在籍児童の「自己肯定感」をはぐくむため、年1回以上、特別支援学級在籍児童が中心となる活動を計画し実行する。 ・児童に対し、発達障がいを含む障がいに関する基礎的な知識及び理解の推進につながる学習を年1回以上(1学期中に)実施する。 	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体性や協調性を育むため、児童会活動やたてわり班活動を通して、集団づくりに取り組む。 <p style="text-align: right;">(異学年交流の充実)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童会を中心として、たてわり班活動やつるっ子祭り、全校遠足、6年生の卒業を祝う会を計画・実施したり、生活のきまりについて話し合ったりする。 ・たてわり班で児童集会(講堂)や学校行事等の交流活動を年間15回以上実施する。 ・あいさつ運動、募金活動など、児童が主体的に活動できることを年に1回以上実施する。 	B
<p>取組内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厳粛な場におけるマナー等の規律、気品のある行動の仕方などを身に付けることができるように儀式的行事の充実を図る。 ・行事を節目として希望や意欲をもってこれからの生活に臨もうとする態度を養う。 <p style="text-align: right;">(儀式的行事の充実)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学式、卒業式、始業式、終業式、修了式、教職員の着任式・離任式、新入生との対面式をそれぞれ年1回以上実施する。 ・儀式的行事の際に向けて、開始前には服装を整えるように指導する。 	

<p>取組内容⑦【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の希望や目標を持ち、社会の一員としてよりよく生きていこうという意欲を育むために、キャリア教育にかかわる活動を充実させる。 <p style="text-align: right;">(キャリア教育の充実)</p>	C
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会見学や出前授業、夢授業など、社会や地域で活躍する方々に触れる機会を各学年、年間1回以上もつようにする。 ・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を95%以上にする。 	
<p>取組内容⑧【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人教育を通して、多文化共生・異文化理解の取組を進める。 ・国際クラブの活動の推進を図る。 <p style="text-align: right;">(多文化共生教育の推進)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間1回以上、世界の国々について学習する。 ・年間を通じて行われる課内実践・民族講師との交流等を通じて、多文化共生教育にかかわる授業を校内において、低・中・高学年で全学年それぞれ年1回以上実践する。 ・国際クラブ参加児童が交流会や発表会に参加することを通して意欲・関心を高め、取り組みに関するアンケート「国際クラブの活動をしてよかった」の項目の肯定的な回答の割合を81%以上にする。 	
年度目標の取り組みの達成状況と分析	
<p>取組内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種取り組みを計画的に行ってきた。その結果、全児童（100%）が学校は楽しいと回答している。 ・心の天気について、未入力が続いている児童には声掛けをすることで、以前より向上しているが、まだ入力していない児童がいる。 <p>取組内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種訓練を計画的に行ってきた。 ・98.5%の児童が「災害や防災について他人事ではなく、自分にも起こりうることとして考え行動できた」の項目について、肯定的に答えている。 ・引き取り訓練は1学期が良いという意見が複数あった。 <p>取組内容③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分を大切にし、周りの人も大切にすることができる」の項目について、肯定的な回答率が97%であった。 ・性に関する指導は保健指導時に養護教諭から行っている。 	

- ・学習参観として保護者に道徳授業公開する機会をとることができなかった。

取組内容④

- ・どの取り組みも計画通り実施することができた。巡回相談は3回実施することができている。
- ・特別支援学級在籍児童が中心になって行う取り組みについては、ひまわりタイムに参加している児童で行うことができた。

取組内容⑤

- ・児童会を中心としてたてわり班活動を実施できている。今年度はたてわり班で活動する全体遠足が行えなかったため、それに代わる校外オリエンテーリング活動を計画、実行することができた。児童集会やつるっこ祭り、校外オリエンテーリングなどの活動によって集団づくりに取り組むことができた。
- ・今年度は児童が主体的に活動ができる取り組みとして「服のカプロジェクト」を行った。また「つるっこ祭り」を土曜授業に設定し、「服のカプロジェクト」も兼ねることで地域と繋がりをもつことができた。

取組内容⑥

- ・儀式的行事を計画的に行うことができた。
- ・節目に目標を決めて頑張ることができる児童が増えており、98.5%の児童が「様々な学習や行事で、めあてに向かって取り組むことができた」の項目について、肯定的に答えている。
- ・開始前に服装を整えることの声掛けもできている。

取組内容⑦

- ・社会見学や出前授業、地域の方と触れ合う機会を多く取り入れたことが関係し、校内アンケートでは、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合が92.4%であった。

取組内容⑧

- ・今年度は大阪万博に全校遠足に行くため世界の国々について学習する機会が増えた。
- ・民族講師との交流は継続的に行っている。また、課内実践や世界の遊びの活動は計画的に行うことができた。

次年度への改善点

取組内容①

- ・各学級の朝の会の日直のせりふの一部に加えるなど、入力忘れをしないような工夫をする。

取組内容②

- ・引き取り訓練を1学期に実施できるように調整し、計画する。
- ・統合に向けて、防災頭巾の購入について検討する。購入するのであれば、予算やスケジュールなど具体的に立てるようになる。

取組内容③

- ・道徳の授業の公開について、学校だよりやホームページを活用して行っていく。

取組内容④

- ・継続して行うようにする。

取組内容⑤

- ・次年度も継続して行っていく。

取組内容⑥

- ・夏場の気温が高い時期にオンラインで終業式や始業式を行うことを検討する。
- ・夏場以外の時期には標準服の上着を着用するよう児童や保護者に呼びかけるようにする。

取組内容⑦

- ・肯定的でない児童に対して、個別に聞き取りを行う。

取組内容⑧

- ・遊びや挨拶以外にも以外にも、文化的な学習を取り入れるようにする。

(形式2)

大阪市立鶴橋小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none">・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を39%以上にする。・小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母体集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。・小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母体集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.5ポイント向上させる。・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。・小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を60%以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <p>〈基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上〉</p> <ul style="list-style-type: none">・令和7年度小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母体集団で比較し、どの学年も令和6年度から0.5ポイント減少させる。 <p>〈基本的な方向5 健やかな体の育成〉</p> <ul style="list-style-type: none">・令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を前年度より0.01ポイント向上させる。(※全国平均を1とした時の割合)	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容⑨【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none">・児童一人ひとりの学習理解度や課題に応じた指導(個別最適な学び)や、自分たちで学び合おうとする力(協同的な学び)を高める学習文化の形成を行い、子どもたちの学習意欲を高め、学力向上に取り組む。 <p>(「個別最適な学び・協働的な学び」の推進・全市共通テスト等の実施と分析・活用)</p>	B

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童への授業アンケートの結果「授業がわかる」「めあてをもって学習している」「自分の考えを伝えることができる」(授業アンケート)等の最も肯定的な回答の割合を⑧67%⑨52.5%⑩67%以上にする。 ・「個別最適な学び・協働的な学び」「主体的・対話的な学び」に関する校内研修を年1回以上実施する。 ・公開授業を一人1回以上行い、研鑽を積む。 ・総合的読解力育成カリキュラムを通して、言語力や対話力、表現力を育成する。 ・教員の授業力向上のための、ICT研修やプログラミング学習を年1回以上行う。 	
<p>取組内容⑩【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然との関わりを大切にし、体験を重視した授業づくりや理科観察実験の充実を図る。 (言語活動・理数教育の充実) 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科に関する出前授業や校外学習を年1回以上行う。 ・理科の授業づくりに関する研修会に年1回以上参加する。 	
<p>取組内容⑪【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階に応じ、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の英語4技能の総合的な育成をすることを通して、コミュニケーション能力の基礎を育むとともに、教員の英語力・指導力の向上にも取り組む。 (英語教育の強化) 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年において、毎週火・水曜日にモジュール学習を行う。 ・全教員が授業参観・研究協議に参加できるように外国語活動巡回訪問を実施する。 	
<p>取組内容⑫【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の体力・運動能力の向上に向けて、運動・スポーツに楽しく参加できる学校行事、各種取組を実施し、運動やスポーツに親しむ機会を増やす。 (体力・運動能力向上のための取組の推進) 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階に応じたゲーム性やイベント性を加味した体育的行事を学期に1回以上実施する。 ・体の動きを高める運動を体育の授業等で取り入れるために、運動につながる基本的な動きの研修会を年1回以上実施する。 	
<p>取組内容⑬【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階に応じた健康に関する指導を推進し、日常より基本的な生活習慣について徹底するように取り組む。 (健康教育・食育の推進) 	B

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回の健康週間、週1回のエチケットチェックなどの実施を通して健康への意識づけを行う。 ・保健の授業や保健だより・懇談会・健康相談等の様々な機会を通じて、児童や保護者に健康への啓発活動を継続して行う。 	
<p>取組内容⑭【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階に応じて、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけるように取り組む。 <p style="text-align: right;">(健康教育・食育の推進)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年において、「食に関する指導の全体計画」(年間2回の栄養指導)を完遂する。 ・月に1回、給食だより・給食カレンダー・食育だよりを児童・家庭に配布することや給食委員会の活動などを通して食育を推進していく。 	
<p>年度目標の取り組みの達成状況と分析</p>	
<p>取組内容⑨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートの結果、最も肯定的な回答において、⑧授業はよくわかりますか。61% ⑨考えをまとめてわかりやすく伝えてありますか。50.4% ⑩目当てをもって学習していますか。60.4%で、やや下回った。しかし、肯定的な回答とすると、3つの項目全て96%を超えている。他教科にわたって、研究の取り組みを続けていった中の成果だと考える。 ・「個別最適な学び・協働的な学び」に関する校内研修(スクールアドバイザー)を5月に実施した。また、「個別最適な学び・協働的な学び」に関するICT研修も行うことで、授業実践に活かすことができた。 ・教材分析会、各チームによる指導案検討会、研究推進委員会、討議会など、計画的に実施し、教職員同士で学び合い、研鑽を積むことができた。 ・作成した年間指導計画を活用し、他教科のカリキュラムと関連させながら実施することができた。引き続き、本校との研究と関連させながら取り組みを続けていく。 ・ICT研修会に関して、2学期にプログラミング研修、3学期にICT研修を行った。授業実践に活かすことができた。 <p>取組内容⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科に関する出前授業や校外学習を計画的に実施することができた。 ・理科の授業づくりに関する研修会に、専科中心に計画的に参加した。また、理科の公開授業において指導講評も行っていただくことができた。 <p>取組内容⑪</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モジュール学習は担任を中心に計画的に実施できた。 ・外国語活動巡回訪問の事業の研修会「短時間学習の実践例研修会」を11月に行い、教員の指導力向上につながった。 	

取組内容⑫

- ・研修を計画的に行うことができた。
- ・休み時間の体育館開放、生活科室の卓球などの取り組みを通して、スポーツに親しむ機会を設けている。運動会や大縄大会など、企画・運営することができた。

取組内容⑬

- ・計画通り実施できた。健康週間では特に気をつけることを明確にして実施できた。
- ・掲示物や保健だより(ホームページの活用)、保健指導などで、児童や保護者に対して、健康に関する啓発活動を行うことができた。
- ・年間を通して、テーマ(本年度は、心の健康)を明確にし、保健指導を行うことができた。

取組内容⑭

- ・計画通りに実施できた。
- ・企業の出前授業を行ったり、委員会活動の取組として毎日の放送に加え、朝食推進ポスターを作成したり給食カルタを行ったりするなど、食育の推進を行うことができた。保護者への啓発として、食育だよりなどの配布も毎月行うことができた。

次年度への改善点

取組内容⑨

- ・統合に向けて、ICTを活用した学びの展開を考えていく必要がある。
- ・積極的な研修への参加を続けていく。

取組内容⑩

- ・令和7年度の全市共通目標の内容に合わせて指標を決めている。次年度の内容で、文言などは検討していく。また、予算などの確保もしていく。

取組内容⑪

- ・引き続き、研修や実践を継続して行い、教員の指導力向上に努める。

取組内容⑫

- ・2学期の体育的行事に関して、感染症拡大防止の理由により、実施できなかった。
- ・運動場ができるまでの、児童の運動量確保の取り組みは、この数年間で計画的に行われている。引き続き、継続して行っていく。

取組内容⑬

- ・実施方法を検討したり、保護者への啓発を行ったりしながら、継続して取り組んでいく。

取組内容⑭

- ・引き続き、継続して行っていく。

(様式2)

大阪市立鶴橋小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1（時間外勤務時間が45時間を超える月数0、かつ、1年間の時間外勤務時間が360時間以下）を満たす教員の割合を80%にする。 <p>学校の年度目標</p> <p>〈基本的な方向6 教育DXの推進〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 <p>〈基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が心身に余裕をもって業務に取り組めるための環境整備を図る。 	B
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	進捗状況
<p>取組内容⑮【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末の環境を生かし、デジタルドリルや協働学習支援ツールを活用することで、児童の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現に取り組む。 <p style="text-align: right;">(ICTを活用した教育の推進)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用開始予定日より学習者用端末やデジタル教科書を毎日使用した学級の割合を100%にする。 ・デジタル教材等を活用した朝学習を週1回実施する。(毎週金曜日) ・教員全員が、校内外で開催されるICTを活用した授業実践にかかる研修会、実践発表会などに年間1回以上参加受講する。 	B
<p>取組内容⑯【基本的な方向8 生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の読書活動を推進するため、「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づき、すべての子どもが生き生きと読書を楽しめるよう、家庭、地域、学校が連携して取り組む。 <p style="text-align: right;">(学校図書館の活性化)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書タイム（月曜日のモジュールタイム）を設定し、個人の読書量を増やす。 ・一人当たりの本の貸し出し冊数を前年度(年間28冊)より増やす。 ・おはなし会や語りの会など本への興味を促すイベントを年間1回以上行う。 ・学期に1回、読書強調週間を設ける。 ・学校アンケートの「本を読む機会が増えた」の項目について肯定的に捉えている児童の割合を67%以上（前年度66.4%）にする。 	B

<p>取組内容⑰【基本的な方向9 家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域を拠点とした学習機会の充実、登下校時の見守り活動、読書活動支援、地域の交流行事など、地域による学校支援の取組や、学校・地域・家庭の連携による様々な取組などの推進を図る。 ・保護者や地域住民が学校の諸活動により積極的に参加できるように取り組むことで、地域学校協働活動等を進め、「教育コミュニティづくり」の推進を図る。 (地域学校協働活動の推進) 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見まもり隊よろしく集会及び見まもり隊ありがとう集会を年1回実施し、地域の方に見守られていることを再認識するとともに感謝の気持ちを抱くようにする。 ・地域との交流行事を年1回以上実施する。 	
<p>取組内容⑱【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の長時間勤務の解消を通じ、教職員が子どもたちの前で健康で生き生きと働くことができ、児童たち一人ひとりに向き合う時間を確保することができる環境の実現を目指す。 (働き方改革の推進) 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりの日を週に1回設定・実施し、定時セットの日を月に1回設定・実施する。 ・夏季・冬季休業中等の学校閉庁日を設定する。 ・教員一人当たりの持ち時間数(授業時数)を23時間程度にする。 	
年度目標の取り組みの達成状況と分析	
<p>取組内容⑮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標通りに実施できた。 ・心の天気やデジタルドリル、それぞれの学習等で端末を活用できた。 ・3学期から毎日学習者用端末の持ち帰りが始まり、家庭でもタブレット端末の活用を進めることができている。 <p>取組内容⑯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標通りに実施できた。 ・毎日の図書館開放や学期に1回の読書週間によって、児童がいつでも本を読める環境になっている。 ・一人当たりの本の貸し出し冊数を前年度(年間28冊)より増やすでは、(1月末現在19冊程度) ・学校アンケートの「本を読む機会が増えた」の項目について肯定的に捉えている児童の割合を67%以上(前年度66.4%)にするでは、65.2%で、目標値をやや下回る結果になった。 <p>取組内容⑰</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標通りに実施できている。 ・地域との交流行事としてつるっ子祭りを土曜授業として実施した。土曜授業にすることで地域の方や保護者の方も参加できた。つるっ子祭りの事後アンケートでは、地域の方がくださった昔遊びが楽しかったと答える児童も多かった。 ・見まもり隊の方と連携を取り、児童の安全を守り、児童自身も見まもり隊の方へ感謝の気持ちを持っている。 	

取組内容⑬

- ・指標通りに実施できている。
- ・持ち時間数が23時間程度になっていることで、授業準備等の時間を確保できている。

次年度への改善点

取組内容⑭

- ・家庭での学習者用端末の活用を進める。学習者用端末を連絡帳がわりにするか、するのであればどの学年がするか検討する。
- ・児童によって、デジタルドリルの進み具合に差がある。
- ・取組内容と指標の「使用開始予定日より学習者用端末やデジタル教科書を毎日使用した学級の割合を100%にする。」の「デジタル教科書」の部分が合っていないので検討する。

取組内容⑮

- ・月間（年間）の貸し出し冊数ランキングを放送したり、個人で記録できる読書ノートを活用したりするなど、個人の読書量を可視化することを検討する。
- ・学校アンケートの「本を読む機会が増えた」の項目について肯定的に捉えている児童の割合が毎年、65%前後で一定である。休み時間や隙間時間に読書をするのではなく、一人一台端末を使用して、調べ物をしたり、タイピング練習をしたりする時間が多くなっている。紙媒体の読み物に触れる機会が少なくなっているため、読書時間の確保が必要である。

取組内容⑯

- ・今年度の取り組みを継続していく。

取組内容⑰

- ・来年度の統廃合に向けて、余剰時数の見直し（北鶴橋小学校の時間割等を照らし合わせる）や学校行事の精選が必要である。学校だよりを北鶴橋の地域まで配布することは担当教職員の負担となるため、学校ホームページで発信することで、見まもり隊の方への配布だけにして地域への配布をやめるなど検討する。

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立鶴橋小学校 学校協議会

1 総括についての評価

「学校が楽しい」と答えた児童の割合が引き続き高いことについて安心した。校舎の建て替えがあと1年続く中で、児童の体力低下や運動場で遊べないことのストレス増加等の懸念はしばらく続くとみられる。学校での取り組みを工夫して、今後も子ども達が楽しく学校に来られるようお願いしたい。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】

〈基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現〉

・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 3年 92.3% 4年 84.2% 5年 78.3% 6年 79.2% 全学年合計 82.5%

・令和7年度において、不登校児童の数を前年度より増やさない。 0→0

・令和7年度の小学校学力経年調査・校内調査の「学校のきまり（規則）を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。

3年 92.3% 4年 73.7% 5年 91.3% 6年 79.2% 全学年合計 84.1%

〈基本的な方向2 豊かな心の育成〉

・令和7年度における児童アンケートで、「自分には良いところがある」と答える児童の割合を90%以上にする。 全校児童対象：96.9%

いじめがダメだということは、児童はみんな分かっているはずである。しかしながら、このままアンケートを繰り返すだけでは数値は頭打ちになる可能性もある。いじめの定義がきちんと児童たちに伝わっているのかどうか、いじめの全体指導をする際に、各学年でそれぞれ「自分にとっていじめられるってどういうことを指すのか」「何をされたらいやなのか」といういじめ意識に対する調査をする等して確認してみたい。その調査を基に、各学年の児童のいじめ意識や実態を把握し、その結果を学級で共有しながら指導すると、アンケート結果も少しは変わってくるのではと思う。

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

〈基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上〉

・令和7年度 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母体集団で比較し、いずれの学年も令和6年度から0.5ポイント減少させる。

3年→4年：21.1%→21.1% 4年→5年：25%→4.3% 5年→6年：17.4%→12%

<p>〈基本的な方向5 健やかな体の育成〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点の対全国比の割合を前年度より0.01ポイント向上させる。 (※全国平均を1とした時の割合) <p style="text-align: right;">5年男子 1.19→0.98 5年女子 1.01→0.96</p>
<ul style="list-style-type: none"> 改善が見られた学年は、なぜよくなったのかをしっかりと分析して他学年にフィードバックするようにして他の学年も頑張ってもらいたい。 前回の校舎建て替え時も、運動場が使えないことで運動能力が低下した。今回も同じような傾向になっている。また、今の子どもたちは外で遊ぶにしても運動をしないことが多いのも原因であるかと思う。先生方には引き続き、もと鶴橋中学校や空きスペースの活用等の活動を工夫し、運動能力の低下の対策をしてほしい。
<p>年度目標：【学びを支える教育環境の充実】</p>
<p>〈基本的な方向6 教育DXの推進〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。 4月～1月までの累計 31.3% <p>〈基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員が心身に余裕をもって業務に取り組めるための環境整備を図る。
<p>端末の活用については、持ち帰り学習も含め学校でいろいろと工夫していることがわかった。引き続き、情報モラルや長時間利用についての健康面についても、学校でしっかりと指導していただきたい。</p>

3 今後の学校園の運営についての意見

<p>北鶴橋との統合まであと1年となった。来年度は創立150周年・閉校記念式典および記念事業も控えている。統合に向けていろいろと調整することが多く大変であると思うが、地域もPTAも引き続きバックアップしていくので、校舎建て替え工事も含めて、滞りなく進めていただけるようお願いしたい。</p>
